

# Ⅶ 豊かな「都」をつくる 22 農業・農地・農村・食と農の振興

## (125) NAFIC教育の充実と周辺の整備

### これまでは

NAFIC附属レストランとホテルは中和の新しい観光施設として定着してきました。さらに、その上段部のセミナーハウスの造成工事に取り組んできました。令和2年度に建築工事着手、令和4年度供用開始予定で整備を進めています。



R2予算案 162,280千円 [債務負担行為 1,581,263千円]

- なら食と農の魅力創造国際大学校(NAFIC)とオーベルジュの機能や立地を活かし、NAFICを核とした賑わいづくりを推進
- 新たにセミナーハウス等を設置し、「食」と「農」の魅力発信により、地域の農産物の活用促進、国内外からの交流人口の増加を図り、中山間地域を活性化

- NAFIC附属セミナーハウスの整備  
(160,780千円、R3債務負担行為 1,581,263千円)

平成30年度	造成工事
令和元年度	外構設計
<b>令和2～3年度</b>	<b>建築工事・外構工事</b>
令和4年度	供用開始予定

- 眺望の良いセミナーハウスの上段部への集客施設整備に向けた民間事業者の誘致  
(1,500千円)

**令和元～2年度** 民間事業者の検討・誘致活動  
 令和3年度以降 民間事業者へのヒアリング、公募条件の整理、民間事業者公募 等

### もっと良くするために

- ・令和4年度供用開始を目指し、NAFIC附属セミナーハウスを整備します。
- ・セミナーハウスの上段部の眺望の良い景観を活かし、民間活力を活用した集客施設の整備を検討します。(162百万円)[債務負担行為 1,581百万円]



セミナーハウス上段部からの眺望

- NAFIC下段部の賑わいづくりの検討も進めます。
- NAFIC開校後4年が経過して見えてきた課題に対応するため、NAFIC教育方針検討会議を立ち上げ、カリキュラム等の見直しを検討します。



賑わいづくり位置関係図



セミナーハウスイメージ



賑わいづくり位置関係図

### <問い合わせ先>

農林部 担い手・農地マネジメント課 喜多仲課長補佐(内線4022)  
 農村振興課 長谷川主幹(内線3909)

令和2年度予算案 162百万円[債務負担行為 1,581百万円]

# Ⅶ 豊かな「都」をつくる 22 農業・農地・農村・食と農の振興 (126) 奈良県豊かな食と農の振興条例の制定

## これまでは

食と農は密接な関わりがありますが、一体的な振興策はありませんでした。  
奈良県は食と農の一体的な振興を目指した取組を進めてきました。

### 食への期待

- ・健康的な食生活実践による健康長寿
- ・おいしい食事の提供による地域観光振興

### 農への期待

- ・健康増進に寄与する良質な食材の提供
- ・地域食材提供による地域観光ブランド化

## 一体的な振興

- ・地域における消費と生産の好循環の形成
- ・食を支える誇りの醸成(生産者)
- ・食への理解の深まり、感謝の念(消費者)

- 農産物直売所ネットワーク「地の味 土の香」形式 H30年度 38店舗 売上額81.2億円
- NAFIC(農に理解のあるシェフ、食に理解のある農業者の養成学校)の設立

食と農の振興に関する条例の制定を目指してきました。

## もっと良くするために

「奈良県豊かな食と農の振興に関する条例」を令和2年2月議会に提案します。

### <基本理念>

「県民の健康増進及び豊かな食生活」「子どもの健全育成」「観光振興等の地域経済の活性化」

### <目的>

「安全で品質の優れた農畜水産物の提供」「おいしく食べる機会の提供」「奈良の食のブランド化」

### <事業の展開>

<p>&lt;食の提供の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産食材のブランド認証推進 (2百万円)</li> <li>・(新)東京での奈良の食の魅力発信 (168百万円、R3~7債務負担行為730百万円)</li> <li>・チャレンジ品目(3百万円)・リーディング品目(7百万円)の生産力、ブランド力、消費拡大の強化</li> <li>・農産物の信頼性確保 (2百万円)</li> </ul>	<p>&lt;食を楽しむ機会の拡大&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(新)奈良のおいしい食の魅力創造・発信 (14百万円)</li> <li>・フードフェスティバル開催 (6百万円)</li> <li>・(新)NAFICとBCCとの連携推進 (7百万円)</li> <li>・(新)UNWTOガストロノミー・ツーリズム世界フォーラムの奈良誘致 (24百万円)</li> <li>・(新)新UNWTOとの連携強化 (8百万円)</li> </ul>
<p>&lt;健康的な食生活の実現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進の支援 (2百万円)</li> </ul>	<p>&lt;子どもの健全育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産食材の情報発信、学校等と生産者のマッチング (1百万円)</li> </ul>

東京に奈良の食と農の新たな展開拠点を設置  
県庁組織に「食と農の振興部」を設置

令和2年度予算案 244百万円[債務負担行為 730百万円]

R2予算案 244,169千円 [債務負担行為 729,963千円]

## 「奈良県豊かな食と農の振興に関する条例」の 基本的施策と主な取組

### 食の提供の充実

#### ①奈良県農畜水産物ブランド認証の推進(2,100千円)

- ・ブランド力の強化を目的に老舗果物専門店等でPR 等

#### ②(新)奈良まほろば館の移転

(167,904千円、R3~7債務負担行為729,963千円)

- ・奈良まほろば館を新拠点に移転し、レストラン機能を加えて整備

#### ③チャレンジ品目の支援(2,647千円)

#### ④リーディング品目の支援(7,032千円)

- ・チャレンジ品目の生産・流通・販売・組織化を支援
- ・リーディング品目の生産力・品質の向上、ブランド力強化、消費拡大を推進

#### ⑤奈良県GAP取組・認証の拡大・推進(1,986千円)

- ・品質向上、競争力強化に資する国際水準のGAP(農業生産工程管理)の取組を推進

### 健康的な食生活の実現

#### ⑪地域での食育の推進(1,780千円)

- ・地域の関係者が連携して取り組む、地域食文化の継承、農林漁業体験機会の提供などの食育活動に関する取組に対して補助

### 食を楽しむ機会の拡大

#### ⑥(新)奈良のおいしい食の魅力創造・発信(14,400千円)

- ・県コンベンションセンターで食に関するイベント等を開催
- ・県内のオーベルジュでファムトリップ等プロモーションを実施

#### ⑦奈良フードフェスティバルの開催(5,850千円)

- ・奈良フードフェスティバル開催支援

#### ⑧(新)NAFICとBCCとの連携の推進(7,300千円)

- ・BCC(バスカカリナリーセンター)との交流事業を実施

#### ⑨(新)ガストロノミー・ツーリズムの推進(23,781千円)

#### ⑩(新)UNWTOとの連携の強化(7,979千円)

- ・2022UNWTOガストロノミー・ツーリズム世界フォーラム誘致に向けた取組の実施

### 子どもの健全育成

#### ⑫奈良県産給食の推進(1,410千円)

- ・県産食材の情報発信、食材講習会、現地見学会の開催
- ・学校等と生産者のマッチング

## 食と農の振興部を設置し、食と農の一体的な振興を推進

### <問い合わせ先>

#### 農林部

①⑤農業水産振興課 國本課長補佐(内線3841)、③④農業水産振興課 北畑課長補佐(内線3843)、⑥⑦マーケティング課 森本主幹(内線3811)

⑪⑫マーケティング課 井ノ上課長補佐(内線3818)、⑧担い手・農地マネジメント課 喜多仲課長補佐(内線4022)

#### 観光局

②観光プロモーション課 野田課長補佐(内線2581)、⑨⑩観光プロモーション課 田中課長補佐(内線2153)

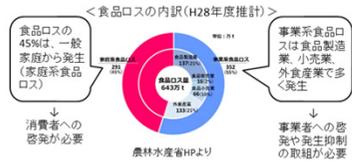
# Ⅶ 豊かな「都」をつくる 22 農業・農地・農村・食と農の振興 (127) 食品ロス削減への対応

## これまでは

食品ロスの増加が社会問題化しています。

### 国の取組

- 賞味期限切れ等で廃棄される食品ロスは国内で年間約643万トン発生
- これを受け、令和元年10月1日に食品ロス削減推進法が施行



### 県の取組

- 食品ロス削減に向けた県民への啓発の実施

- ・バス車内広告、県民だより等の媒体を用いた県民への啓発
- ・県内農産物直売所、アンテナショップにおける啓発ポスターの掲出
- ・食品ロス削減推進フォーラムの開催
- ・環境情報サイト「エコなら」による情報発信



## もっと良くするために

### 子ども食堂の安定運営と食品ロス削減が両立する体制を構築

- 消費者、事業者等に対し食品ロス問題の認知度向上のための啓発を行う。
- 食品関連企業等で発生する未利用食品を子ども食堂等で有効活用

### 子ども食堂が地域に根付いた活動として、継続できるよう支援するとともに、未利用食品の流通ルートを確立する。

- 県推進計画の策定、消費者、事業者等への更なる啓発(1百万円)
- (新)子ども食堂コーディネーターを配置し、子ども食堂をサポート(4百万円)
- (新)フードバンクに対し、未利用食品の集積・配送経費を補助(1百万円)
- (新)フードバンク活動の推進(1百万円)
- 産業廃棄物の排出抑制等に取り組む事業者への環境カウンセラーの派遣(1百万円)

令和2年度予算案 8百万円

R2予算案 8,339千円

## ○消費者、事業者等に対する啓発や、食品関連企業等で発生する未利用食品の有効活用により、食品ロスの削減を推進

### R元年度の取組

- ・奈良県食品ロス削減推進フォーラムの開催
- ・食品ロス問題の認知度調査(県民アンケート)
- ・県民に対する啓発(リーフレット配布)



啓発用リーフレット(県作成)



食品ロス削減推進フォーラム(チラシ)

### R2年度の取組

## 食品ロスに関する啓発のほか、フードバンクや食品事業者等と連携した食品ロス削減の取組を推進

### ①食品ロス削減の推進 (1,000千円)

- ・食品ロス削減推進フォーラムの開催
- ・食品ロス削減推進計画策定等

### ②(新)フードバンク活動の推進 (1,500千円)

- ・市町村等によるフードバンク活動推進のための検討会の開催や、普及啓発等の取組に対し補助

### ③産業廃棄物の排出抑制 (839千円)

- ・産業廃棄物の排出抑制・減量化に取り組む排出事業者が抱える課題等に対し、環境カウンセラーを派遣

### ④(新)子ども食堂コーディネーターによる支援 (3,500千円)

- ・民間協力企業の掘り起こし、子ども食堂とのマッチング
- ・子ども食堂開設・運営に係る相談支援

### ⑤(新)未利用食品の活用促進 (1,500千円)

- ・子ども食堂や福祉施設等に対するフードバンク活動を行うNPO法人等に対し、食品の集積・配送にかかる経費を補助

子ども食堂が地域に根付いた活動として継続できるよう支援するとともに、未利用食品の流通ルートを確立し、**子ども食堂等の安定運営と食品ロスの削減のための体制を構築**

#### <問い合わせ先>

- ①②⑤ 農林部 マーケティング課 井ノ上課長補佐(内線3818)
- ③ 景観・環境局 廃棄物対策課 田原課長補佐(内線3381)
- ④ 子ども・女性局 こども家庭課 中川課長補佐(内線2871)

# Ⅶ 豊かな「都」をつくる 23 畜産・水産業振興 (128) 食肉畜産業の振興・食肉公社の運営

これまでは

生産頭数は、ここ5年間はほぼ横ばい  
継続生産可能な頭数に応じた畜産振興の検討が必要

大和畜産 ラジフ	大和牛	ヤマトボーク	大和肉鶏	(乳用牛)
主な飼育地域 (県内シェア)	宇陀市、御杖村、 五條市(約38%)	奈良市、五條市、 大淀町(約37%)	五條市、宇陀郡、 奈良市(約77%)	五條市、山添村、 葛城市(約94%)
概計生産数 (2022年)	2,306頭/年 (0.22%)	8,006頭/年 (0.05%)	108千羽/年 (0.04%)	3,188頭/年 (0.24%)

支援のあり方を5つの柱で検討

- ①ブランド力の強化 ②家畜防疫 ③技術開発
- ④食肉センターの改善 ⑤一般農家への支援

食肉公社の運営のあり方について検討

もっと良くするために

大和畜産ブランドの特質を、具体的な「奈良ものブランド力」の確立に結びつける

	大和牛	ヤマトボーク	大和肉鶏
良い所	肉質の柔らかさ	手頃な価格	認知度の高さ
課題	生産頭数の少なさ	特徴の弱さ	価格の高さ

大和牛 「みつえ高原牧場整備」による県内産大和牛の生産体制の確保  
ヤマトボーク 美味しい「ヤマト霜降り豚」の育成  
大和肉鶏 「新・大和肉鶏の商用化」による生産コストの削減

大和畜産ブランド力の強化策と生産流通体制の確立

- 大和畜産ブランド確立への支援(100万円)
- 大和牛の安定生産のための優良血統牛の導入支援(600万円)
- 次世代大和肉鶏の生産流通体制確立試験(100万円)
- 畜産競争力強化のための施設整備に対する支援  
(R元・2月補正 1100万円)

食肉公社の役割を「衛生管理の行き届いた」「効率的な経営を行う」と畜場の運営と定め、具体的な対策を進めます。

- 奈良県食肉センター運営費補助(3490万円)

令和2年度予算案 3570万円  
令和元年度2月補正予算案 1100万円

R2予算案 357,198千円、R元・2月補正予算案 110,000千円

## 〈食肉畜産業の振興〉

大和畜産ブランドの上質化と流通を推進することで、奈良県の畜産を振興

大和畜産ブランドの  
推進  
(1,226千円)

大和畜産ブランドの付加価値を高め、認知度を向上させる取組に対し支援

大和牛の品質向上に  
向けた支援  
(6,000千円)

奈良県プレミアムセレクト認証率の向上に向け、優良血統牛の導入に対し支援

次世代大和肉鶏の  
流通を推進  
(1,076千円)

次世代大和肉鶏の供給体制の確立に向けた育成試験を実施

畜産競争力強化のための施設整備に対する支援  
(R元・2月補正予算案 110,000千円)

畜産の競争力強化を図るため、鶏舎等の施設整備に対し支援



奈良県プレミアムセレクト大和牛

## 〈食肉公社の運営〉

食肉センターの施設管理と畜事業を適切に運営することで、安全安心な食肉を供給

奈良県食肉公社運営費補助(348,896千円)

奈良県食肉センターの施設管理、と畜業務等の運営費やHACCPに対応するための整備費に対する補助



奈良県食肉センター

〈問い合わせ先〉

農林部  
畜産課 大谷課長補佐(内線3882)

# Ⅶ 豊かな「都」をつくる 23 畜産・水産業振興 (129) みつえ高原牧場の整備

## これまで

- 開場以来、約1,500頭の優良和牛の素牛を生産し畜産農家に供給
- 今後の畜産振興に活かしていくため、未利用地の活用方法を検討
- 東部地域の活性化のため、御杖村と「まちづくりに関する包括協定」を締結



## もっと良くするために

- これまでの「優良和牛の素牛の供給・繁殖技術の研究」、「乳牛の育成場所の提供」の役割に「県内産大和牛の生産・育成拠点」、「地域の観光交流拠点」を加えて整備する

- 令和7年度 生産拠点(畜産団地)一部オープン予定  
令和12年度 フルオープン予定

- 大和牛のブランド化にあたり、「生産(出荷)目標1,000頭以上」とし、「東京市場への出荷」を行い、「大和牛ブランド基準の整理」を図る

ブランド基準は、「県内農場で育成」・「肉質」・「出荷先」等

- 令和2年度は畜産団地に必要な用水を確保するための水源調査を実施(13百万円)し、農家との協議を進める。



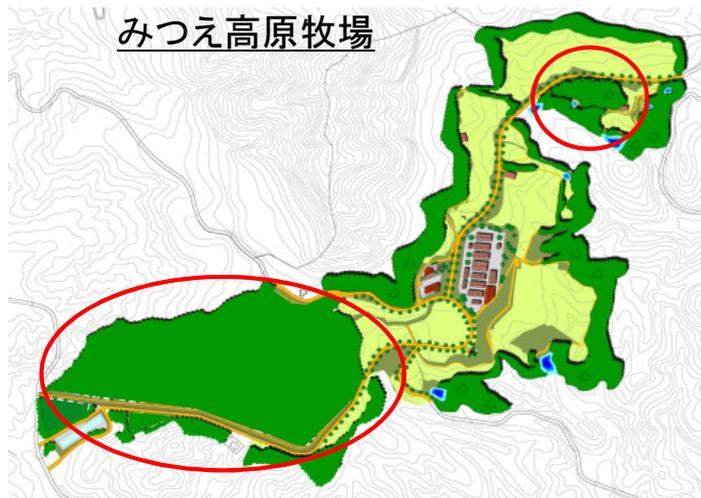
令和2年度予算案 13百万円

R2予算案 13,350千円

みつえ高原牧場の一部を活用して畜産団地を整備し、畜産農家を誘致することにより、肉用牛(大和牛)・乳用牛の生産拠点とし、東部地域の振興と畜産振興を図る

## 〈事業内容・スケジュール〉

- 令和2年度 畜産団地に必要な水源を確保するための用水調査 (13,350千円) 農家との協議
- 令和3年度 用地の調査・測量
- 令和3年度～5年度 基本設計・実施設計
- 令和6年度～ 団地造成・畜舎等整備
- 令和7年度 一部オープン(予定)
- 令和12年度 フルオープン(予定)



事業実施予定箇所



畜舎イメージ

〈問い合わせ先〉

農林部

畜産課 億主幹(内線3881)